

令和3年6月1日

東京医療福祉専門学校  
校長 殿村 康一 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 近藤 昌之

## 学校関係者評価委員会報告

令和元年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

### 記

#### 1. 学校関係者評価委員

- ① 近藤 昌之 (株式会社シー・エム・シー 代表取締役社主)
- ② 藤井 剛寛 (株式会社F.C.C 代表取締役社長)
- ③ 川辺 奈穂 (銀座ハリッチ 代表)
- ④ 浅谷 健介 (学校法人浪越学園 日本指圧専門学校 教員)
- ⑤ 橋元 壯太 (有限会社ジョイフル 代表取締役)
- ⑥ 奥 優二 (株式会社久庵)

#### 2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 開催日 令和3年3月30日(火)
- ② 会場 東京医療福祉専門学校 602-603 教室 (東京都中央区八丁堀 1-11-11)

#### 3. 学校関係者委員会報告 別紙のとおり

以上

## 別紙

### I 事業計画について

学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を成すための事業計画について、検討および質疑応答を行った。

### II 各評価項目について

#### 1. 教育理念・目的・人材像

評価基準1「教育理念・目的・育成人材像」に関する検討において、各委員からは以下の意見が挙げられた。

- 法令を遵守するという大前提に基づいたうえで、在校生及び入学希望者が魅力を感じる人材育成に取り組んでいると感じる。
- 学生の帰属意識を高めるための取り組みを、継続的に実施していく必要があると感じる。
- 学修意欲が低下した状態で在籍している学生に対して、継続的なサポートを実施し、業界に対してポジティブな目的を持った人材を育成するための手法を構築していく必要がある。
- 3年生に対して国家試験対策を実施することも重要だが、今後は初年度教育にもさらに力を入れていく必要があるように感じる。
- はり・きゅう・あん摩マッサージ・柔道整復業界が、学生にとって憧れの対象であり続けるために、現場にいる我々が襟を正して取り組んでいく必要があると痛感した。

#### 2. 学校運営

評価基準2「学校運営」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 関係法規及び設置基準に基づいた学校運営を実施しているように感じる。
- 学校運営に関する各種制度を上手く活用し、今後も学校運営を実施していただきたい。
- 厚生労働省に認可される専門学校として、今後も適切な学校運営を実施していただきたい。

### 3. 教育活動

評価基準3「教育活動」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 現場教育の一環となる外部臨床実習を実施していることは大変素晴らしい。今後も臨床実習を通じて、現場で活躍する人材を育成していただきたい。
- 在学中に卒後を意識させる取り組みをさらに拡充してみてもどうか。例えば、臨床現場で活躍する施術者を学生に見せることで、「この先生になりたい」といった目的意識を構築する取り組みを実施していただきたい。
- 学ぶことの大切さ、学ぶことの楽しさを学生主体で構築することができる手法について、さらに拡充していく必要がある。
- 既存のニーズだけに囚われず、従来は本業界に興味を持たなかった層に興味を抱いてもらえるような取り組みを実施していただきたい。
- 在校生にとって、専任教員が憧れであり続けるために教員自身の自己研鑽を今後も継続していくことが大切であると感じる。

### 4. 学修成果

評価基準4「学修成果」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 教育内容を拡充することで、卒後のキャリア形成においても良い影響を与えることができると思う。貴校でしか学ぶことができない教授内容を今後も大切にしつつ、高い就職率をキープしていただきたい。
- 卒業後のキャリア形成を図るためにも、入学前からサポートが実施できるとよいのではないかと。
- 各業種への就職状況を明確にし、実数値を明示する必要がある。就職状況の見える化を行い、学生の就職への意識づけをさらに実施していただきたい。
- 国家試験合格率については、高水準を保っていると感じる。今後は全員合格に向けてこれまで以上教員の方々には努力を続けていただきたい。

### 5. 学生支援

評価基準5「学生支援」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- ハラスメント問題に留意したうえで、個々の学生に寄り添ったサポートを実施し続けていただきたい。
- 退学率が増加していることに対して、学校をあげて問題解決を図る必要があると感じる。
- メンタルケアを拡充し、メンタルヘルスを抱える学生に対するサポート体制を拡充する必要があると感じる。
- はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧科の学生の退学率が多いのが気になる。原因究明を実施し、今後退学率減を目指していただきたい。

## 6. 教育環境

評価基準6「教育環境」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 今後に予定している設備投資を実施し、学内設備拡充にご尽力いただきたい。

## 7. 学生の募集と受け入れ

評価基準7「学生の募集と受け入れ」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 既卒者の入学者が減数しているように感じる。今後は高校新卒生の獲得にも力を入れていく必要があるのではないか。
- 広報専属の職員の配備、及び潤沢な広報予算が広報活動の成功には必須であると考える。高校新卒生を獲得しないことには、定員充足は叶わないため、高校新卒生獲得は必須事項であるとする。
- SNSを活用した学校広報活動をさらに拡充していく必要があると感じる。

## 8. 財務

評価基準8「財務」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 学校法人として適切な学園運営を実施していく事を心がけていただきたい。

## 9. 法令等の遵守

評価基準9「法令等の遵守」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 法令を遵守したうえで、適切な学校運営を実施していると感じる。
- 厚生労働省に認可される専門学校として、今後も適切な学校運営を実施していただきたい。

## 10. 社会貢献・地域貢献

評価基準10「社会貢献・地域貢献」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 今後も社会貢献・地域貢献に対して積極的に取り組んでいただきたい。